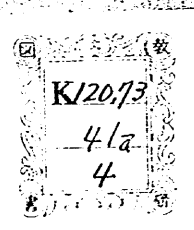


新
編
教育唱歌集

文部省檢定
教育音楽講習會編

第四集



K120.73

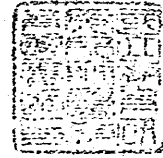
41a

4

教育部省定
明治三十九年二月十二日

教育音樂講習會編纂
新編
教育唱歌集
第四集

東京
開成館藏版



本書の歌曲は主として、諸大家が特に本書のために新作せられたるものにして、其中特に「音樂學校許可」と註せるものは該校が管て高等師範學校附屬の時代に歌曲の引用を許可したりし時、特に請ひて、本書に轉載することを許されたるものに係り、其他の歌曲は「新撰國民唱歌」及び東京開成館が著作権を有するもの、若しくは本書の編纂に當りて、當該著作権所有者の許諾を得たるものなり。

新教育唱歌集第四集目次

一 自轉車……………	一
二 曾我兄弟……………	三
三 師を送る……………	七
四 君のため……………	九
五 金剛石……………	二
六 玉の宮居(音樂學校許可)……………	一五
七 矢玉は霞(音樂學校許可)……………	一七
八 富士山(音樂學校許可)……………	一九
九 四季の富士……………	二二

一〇 四季の月(音樂學校許可)……………	二五
一一 太平洋……………	二七
一二 黃海の戰……………	二九
一三 若紫(音樂學校許可)……………	三一
一四 蕪に知らるゝ(音樂學校許可)……………	三三
一五 豐太閤……………	三五
一六 海國男兒……………	三七
一七 白蓮白菊(音樂學校許可)……………	四〇
一八 陸戰……………	四二

(第四集)

(第四集)

一九 修學旅行……………	四六
二〇 螢の光(音樂學校許可)……………	四九
二一 汽船……………	五一
二二 河すすみ……………	五三
二三 植物園……………	五五
二四 漁業の歌……………	五九
二五 勤勉正直(國定修身書)……………	六一
二六 勅語奉答……………	六四
二七 學校紀念日……………	六七
二八 始業式……………	六九

二九 終業式……………	七一
三〇 卒業式……………	七三
三一 日の丸の旗(國定修身書)……………	七五

目次終

自 轉 車

5.5 1.1 | 2.2 5 | 3.3 1.1 | 2.2 2 0 |

(一) フタツノクルマ オトナモ タテズ
(二) つかれもしらぬ またたく ひまに
(三) ココロノ ママニ オソクモ トクモ

5.5 3.3 | 5.5 1 | 2.2 3.3 | 2. 0 |

ヒトナモ リマモ アトニミテ
さとなものなも はやすぎて
ハーシル クルマ オモシロヤ

3.3 1.1 | 6.6 1 | 5.6 5.3 | 2.2 1 |

タチマチキヌル イチリノ ミーチ
つばさの あると かーばら ねーば
ハールノ アシタ アーキノ ユフベ

2.2 3.3 | 5.5 6.6 | 1.1 2.3 | 1. 0 ||

カホ フリ カセノー ココチヨ ヤ
そら とぶ とり なー うら やま じ
ヤガ イノ トモ ハー コノ クルマ

自 轉 車

- (一) 二つの車音をも立てず、人をも馬もあとに見て、
たちまち來ぬる一里の道。顔ふく風のこゝちよや。」
- (二) つかれも知らぬ瞬くひまに、里をも野をも、早過ぎて、
翼のあるとかげられれば、空とぶ鳥をうらやまじ。」
- (三) 心のまゝに、遅くも、疾くも 走る車、おもしろや。
春のあした、秋の夕、野外の友はこの車。」

曾我兄弟

(本調又は變調に移すことを得)

Musical score for 'Soga Brothers' (曾我兄弟) in 2/4 time. The score consists of four systems of music with four vocal parts: (一) Tenor, (二) Alto, (三) Bass, and (四) Soprano. Each system includes a staff with notes and a line of lyrics in Japanese. The lyrics are: (一) フーシノスツノカリノニハ (二) めーさすかたきのすけつれが (三) ハーマモミエスミダレ (四) いかにすけつれとくさめよ. The score is written in a traditional Japanese style with a key signature of one flat and a common time signature.

(第四集)

曾我兄弟

(第四集)

(一) 富士の裾野の狩の庭

關八州のつはものを

あつめて、こゝに狩りくらす

威勢かがやく右大將

(二) 目さすかたきの祐經が

陣屋は何處こよひこそ

討ちて恨をばらさんと、

待てば夕の暮れがたき。

(三) 晴間も見えぬ五月雨に、

燃えんとしてまたしめる
松明の光をたのみにて、

忍び入りこむ敵の小屋」

(四) いかにも祐經とくさめよ。

曾我が五郎ぞ十郎ぞ。

忘れもすまじ父の仇、

討に來ると知らざるか。」

(五) 刀とるより立ちあがる

敵めがけて兄弟が

岩もとほれと斬りつくる、

みよや孝子の一念を。」

(六) 見事あたをば報いたり。

心にかゝる雲もなし。

縛らばしはれ斬らば、きれ。

命生きても何かせん。」

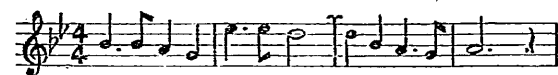
(七) 五月雨はれて千秋の

雪なほ白し富士の峯。

清くけだかき姿こそ

わが國民の鏡なれ。」

師を送る



1. 1 7 6 | 4. 4 3- | 3 1 7- 6 | 7- 0 |

(一) マナビノニハノチチハハト-

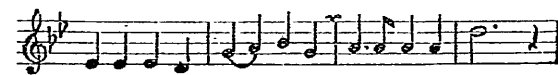
(二) わかれてのちもみなしへは-



6- 4 3 | 6 7 1 6 | 7. 7 7 7 | 3- 0 |

ア フギ マツリ シ シノキミ ニ-

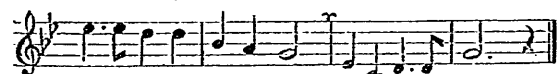
か- たく ましりて ほげま し-



4 4 4 3 | 6 7 1 6 | 7. 7 7 7 | 3- 0 |

リカ ル ケ-フノ カナシサ ヨ-

ち- ちの めぐみの ひとつだ に-



4. 4 3 3 | 1 7 6- | 1 2 3. 3 | 6- 0 ||

オモヘバ サメヌ- ユメニニ テ-

むくゆる みち と- なるまで に-

師を送る

(一)

まなびの庭の父母と

仰ぎまつりし師の君に

わかるゝけふのかなしさよ、

思へば、さめぬ夢に似て。

(二)

わかれて後も、みをしへは

かたく守りて、勵ままし、

千々のめぐみの一つだに

むくゆる道となるまでに。

君のため

(一) キー ミ ノ タ メ ニ ハ ミ ナ ヲ スー レ
 (二) く ー に の た め に は い へ な す て
 (三) マ ス マ ツ ー ク セ キ ミ ノ ター メ
 (四) あ ー ま つ ひ つ き の み く ら ゐ は

イ ノ チ ナ スー テ テ カ ヘ リ ミ ズ
 さ ー ん な や ぶ リ テ か ヘ リ み ナ
 イ ヨ イ ハー ゲ メ ク ニ ノ タ
 セ カ い に の ー ゴ む な な ら す

コー レゾー セ カ イ ニ タ ク ヒ ナ キ
 コー レゾー ちきゅうに すぐ れ た る
 コー レゾー ヒイヅル ク ニ ノ ナ
 ひいづとー いーへ る く に の な は

ヒイ ー ル クー ニ ノ オ ミ ノ ナ
 ひい ー る クー ニ ノ オ ミ ノ ナ
 チ ュー ニ カ ガー ヤ ラ ス ミ ナ
 チ ュー ニ カ ガー ヤ ラ ス ミ ナ

(第四集)
(第四集)

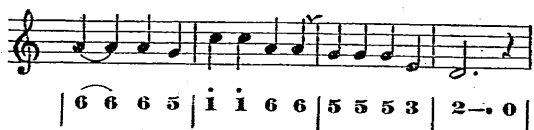
君のため

- (一) 君のためには身を忘れ、命をすてて、かへりみず。
これぞ世界に類なき 日出づる國の臣の道。」「
- (二) 國のためには家をすて、産をやぶりて顧みず。
これぞ地球にすぐれたる 日出づる國の民の性。」「
- (三) ますく盡せ、君のため。いよくはげめ國のため。
これぞ日出づる國の名の 宇宙にかがやく基なる。」「
- (四) 天津日嗣の御位は 世界に臨む名ならずや。
日いづといへる國の名は 地球をてらす名ならずや。」「

金 剛 石



(一) コンゴ - セー キモ ミカカズ パー
(二) み - づ は う つ は に し た が ひ て -



タ - マ ノ ヒ カ リ ハ ソ ハ ザ ラ ン -
そ の さ ま ざ - ま に な り め な リ -



ヒ - ト モ マ ナ ビ テ ノ チ ニ コ ヲ -
ひ - と は ま じ ば る と も に よ リ -



マ コ ト ノ ト - ク ハ ア ラ ハ ル レ -
よ - き に あ し き に な り め な リ -

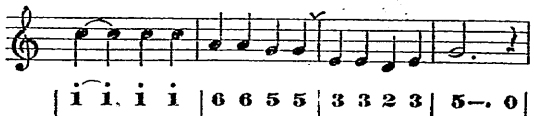
金 剛 石 (つづき)



ト ケ イ ノ ハ - リ ノ タ エ マ ナ ク -
お の れ に ま - さ る よ き と も な -



メ ケ ル ガ コ - ト ク ト キ ノ マ モ -
え - ら び し と め て し ろ と も に -



ヒ - カ タ チ シ ミ テ ハ ケ ミ ナ パ -
こ こ ろ の こ - ま に む ち う ち て -



イ カ ナ ル ク - ザ カ ナ ラ ザ ラ ン -
ま な び の み - ち に す す む べ し -

金剛石

(一) 金剛石も、みがかずば、

たまの光は、そはざらん。

ひとつも、學びて、後にこそ、

まことの徳は、あらはるれ。

時計のはりの、たえまなく

めぐるがごとく、ときのもも、

光陰惜みて、はげみなば、

いかなる業か、ならざらん。」

(第四集)

(第四集)

(二) 水はうつはに、したがひて、

そのさまざまに、なりぬなり。

人は交る、友により、

よきにあしきに、なりぬなり。

おのれに優る、よき友を

えらびもとめて、もろともに、

こゝろのこまに、むちうちて、

學の道に、すゝむべし。」

玉の宮居

(一) ターミノ ミヤキハ アレハテ テーアメ
(二) ふーゆの よさむの つきさえ てーひま

サヘツユ サヘイト シゲクレ ドー
もるかぜ きへみな きるばかり

ターミノ カマドノ ニギハヒ ハーダツ
たーみな おもほす みこころ にーおほ

ケムサニ ソーアラ ハレニケ ルー
みこころも ヤーのが せたまひ しー

玉の宮居

(一) 玉の宮居は あれはてて、

雨さへ露さへ いとしげけれど、

民のかまどの にぎはひは

たつ烟にぞ あらはれにける。」

(二) 冬のよさむの 月さえて、

ひまもる風さへ 身をきるばかり。

民をおもほす みこころに、

大御衣や ぬがせたまひし。」

矢玉は霰

(一) ヤ ダ マ ハ ア ラ レ ト フ セ ナ カ チー
 (二) あ ら ち は さ わ ぎ て う み く ら しー
 (三) ス マ ノ ツ ハ モ ノ ヌ キ ツ レ テー

5. 4 3. 2 1. 2 3. 4 5. 6 5. 3 2- 0-
 ス ス メ ヨ マ ス ラ ナ ゴ ク ル ナ ヨー
 お そ ヘ る て き ば お に な り とー
 キ ラ メ ク イ ナ ズ マ ト キ ノ コ エー

1- 2 2 3 3 2 1 3 3 2 1 7- 0-
 ター ト ヒ イ ノ ナ ハ ス ツ ト テ モー
 ほー ふ り つ く し て と つ く に にー
 ヒー ト ノ オ ド ロ ク イ ク サ シ テー

5 5 6 6 5 5 3- 2 2 1 2 3- 0-
 ミ ク ニ ノ タ ミ ノ ナ ナ シ サ ナー
 み く に の た み の な な し さ なー
 ミ ク ニ ノ タ ミ ノ ナ ナ シ サ ナー

5- 3 2 1 1 2 2 3 3 5 6 3. 2 1 0
 ミー セ ヨ シ メ セ ヤ ソ ノ ナ ナ シ リ ナ
 みー セ ヨ し め ゼ や そ の な な し さ な
 ミー セ ヨ シ メ セ ヤ ソ ノ ナ ナ シ リ ナ

矢玉は霰

一七

矢玉は霰

- (一) 矢玉は霰と降る中を 進めよ、益荒雄。おくるなよ。
 たとひ命はすつとても、御國の民のを、しさを
 見せよ、示せや、そのを、しさを。
- (二) 暴風はさわぎて、海くらし。おそへる敵は鬼なりと、
 ほふり盡して、外つ國に 御國の民のを、しさを
 見せよ、示せや、そのを、しさを。
- (三) 數萬のつはものぬきつれて、閃めくいなづま、鬨の聲。
 人のおどろくいくさして、御國の民のを、しさを
 見せよ、示せや、そのを、しさを。

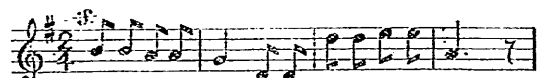
矢玉は霰

一八

(第四集)

(第四集)

富士山



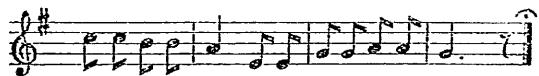
3 3 2 2 | 1 5 5 | 5 5 6 6 | 2. 0 |

(一) フモトニ グ モン カカリケ ル

フシテフ ヤ マノ ミワタシ ニ

(二) とつくに び とも おふぐ な り

ふじてふ や まの みわたし に



4 4 3 3 | 2 6 6 | 1 1 2 2 | 1. 0 |

タカネニ ユ キン ツモリタ ル

シクモノ モノ モナシ ニルモナシ

わがくに び とも ほこる な り

しくもの し なし にるもなし



5 5 4 4 | 3 6 | 4 4 6 6 | 1 7 |

ハダヘハ ユ キ コロモハ クモ

てるひの か げ そらゆく つき



4 4 2 2 | 5 3 3 | 2 2 7 7 | 1. 0 |

ソノユキ ク モチ ロソヒタ ル

つき ひと しに かがやき て

富士山

(一)

麓に雲ぞかゝりける。高嶺に雪ぞ積りたる。

肌は雪、衣は雲。その雪雲をよそひたる

富士てふ山のみわたしに、しくものもなし。似るもなし。

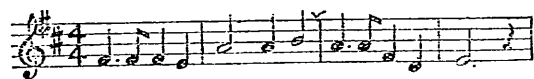
(二)

外つ國人も仰ぐなり。わが國人も誇るなり。

照る日のかげ、空行く月。月日と共に輝きて、

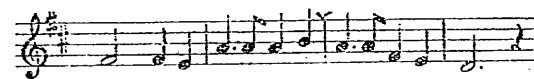
富士てふ山の見わたしに、しくものもなし。似るもなし。

四季の富士



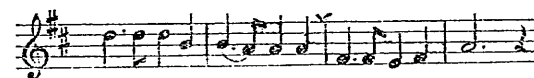
3.3 3 2 | 5-5 6 | 5.5 3 1 | 2-0 |

- (一) カスメル ソーラニ キエノコ ルー
 (二) すずしき なーみに かげうつ すー
 (三) ユフヒノ ソーラニ ハエマサ ルー
 (四) つもるが うーへに つもりそ ふー



3- 3 2 | 5.5 5 6 | 5.5 3 2 | 1-0 |

フー シノ タカネノ ハルノユ キー
 ふーじの たかれの なつのゆ きー
 フー シノ タカネノ アキノユ キー
 ふーじの たかれの ふゆのゆ きー



1.1 1 6 | 6.5 5 5 | 3.3 2 3 | 5-0 |

ユキカフ キーシノ マドノウ ナー
 たーごの うちわに こぎいで てー
 ヨーシノ タツタノ ハナモミ ゲー
 きーよく けだかき すがたよ とー

四季の富士 (つづき)



6.6 6 5 | 1- 6 6 | 5.5 3 2 | 1-0 |

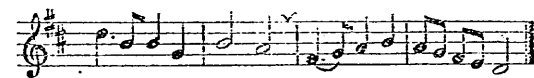
タピスル ヒートノ ナガムラ ンー
 つりする あーまし ながむら んー
 ナガメモ イーカデ オヨアベ キー
 よーもの くにびと あふぎみ んー

(合唱)



5.5 6 6 | 6 1.6 5- | 3.1 2 3 | 5.6 5- |

ア ナオモ シロー ノーキーマノ ケシキー
 あ なおも しろー のーやーまの けしきー
 ア ナオモ シロー ノーキーマノ ケシキー
 あ なおも しろー のーやーまの けしきー



1. 6 6 4 | 6-5- | 3.1 5 6 | 5.1 3 2 1- |

ア ナナツ カーシー ハーノ ナーガーマー
 あ ななつ かーしー なーつの なーがーめー
 ア ナナツ カーシー アーキノ ナーガーマー
 あ ななつ かーしー ふーゆの なーがーめー

四季の富士

(一)

霞める空に消えのころ 富士の高嶺の春の雪。
ゆきかふ汽車の窓のうち、旅する人のながむらん。」

合唱「あな、おもしろの山の景色」

あな、なつかし、春のながめ。」

(二)

涼しき波に影うつす 富士の高嶺の夏の雪。
田子の浦曲にこぎいでて、釣する海士もながむらん。」

合唱「あな、おもしろの山の景色」

あな、なつかし、夏のながめ。」

(第四集)

(三)

夕日の空にはえまさる 富士の高嶺の秋の雪。
吉野龍田の花もみぢ、ながめもいかでおよぶべき。」

合唱「あな、おもしろの山の景色」

あな、なつかし、秋のながめ。」

(四)

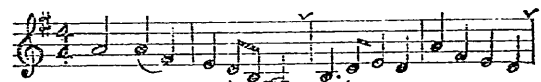
つもるが上に積りそふ 富士の高嶺の冬の雪。
清くけだかき姿よと、四方の國人あふぎ見ん。」

合唱「あな、おもしろの山の景色」

あな、なつかし、冬のながめ。」

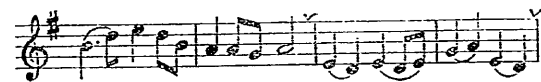
(第四集)

四季の月



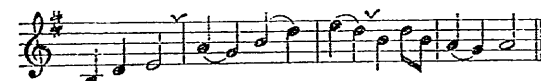
2-2 7 | 6 5 3 2- | 3 5 6 5 | 2 7 6 5 |

- (一) サ-キ- ニホ- フ- ヤ- マノ サクラノ
(二) あ- め- すぎ- し- に- (は)の くさばの
(三) ミ- ル- ヒト- ノ- コ- コロ ゴコロニ
(四) み- づ- とり- の- こ- 点も みにしむ



3. 5 6 5 3 | 2 2 1 2- | 6 5 6 5 6 | 1 2 6 5 |

- ハ- ナノ- サヘ- ニ- ガ- ス- ミ- テ-
つ- ゆの- うヘ- に- し- ば- し- は-
マ- カセ- オキ- テ- タ- カ- ネ- ニ-
い- けの- おも- に- さ- な- が- ら-



3 5 6- | 2 1 3 5 | 6 5 3 5 3 | 2 1 2- ||

- イ デ シ- ハ- ル- ノ- ヨノ- ツ- キ-
や ど る- な- つ- の- よの- つ- き-
ス ル- ア- キ- ノ- ヨノ- ツ- キ-
こ ほ る- ふ- ゆ- の- よの- つ- き-

四季の月

- (一) さきにほふ 山の櫻の花のうへに、
霞みていでし 春の夜の月。
(二) 雨すぎし 庭の草葉の つゆのうへに、
しばしはやどる 夏の夜の月。
(三) みる人の ころごころに まかせおきて、
高嶺にすめる 秋の夜の月。
(四) 水鳥の こゑも身にしむ 池のおもに、
さながらこほる 冬の夜の月。

太平洋

(變口調に移すことを得)

(一) ミラーダス カギー リーソラーウチ カスーミー
 (二) かーざり しられぬ あなうな ばらーにー
 (三) ヲータル チフネ ヲーイトーナス ラケーター
 サンーエン パンーリー キハーモナ シー
 いでーては しづーむ つきーのか げー
 センシュエー マモール フジーノヤマー
 ナミタチ アーレーズ カセシヅ カーニーデー
 すみたる るーリー のみそらの あなーたー
 カーミト タフトー キーソノスガ ターチャーパー
 カガーミニニター ルータイーヘイ ヨー
 たらーては きやーるーくしーのみ けー
 アフーガモヒトー ゴーナカリーケ ルー

(第四集)

(第四集)

太平洋

- (一) 見渡すかぎり、空うちかすみ、雲烟萬里、きはもなし。
 波立ち暴れず、風静にて、鏡に似たる太平洋。
 (二) かぎり知られぬ青海原に、出でては沈む月の影。
 澄みたる瑠璃の上空のあなた、立ちては消ゆる雲の峯。
 (三) 渡る千船をいと安らげく 千秋守る富士の山。
 神とたふときその姿をば、仰がぬ人ぞなかりける。」

黄海の戦

Musical score for "Yellow Sea Battle" (黄海の戦). The score is written in 4/4 time and includes three systems of music with corresponding lyrics in Japanese.

System 1:

5. 5. 5. 5. 6. 6. 5. 5. 1. 2. 1. 1. 6.

(一) ショーミ エハ ーバ ノー
(二) ナミ ーお ーレハ
(三) ゴマ ータ ーレハ

System 2:

5. 5. 5. 5. 6. 6. 5. 5. 3. 2. 1. 1. 1.

{ホー ーダ ーン ア タ カ モ テ ニ ミ リ
{ニッ コ コ ン ア タ コ グ の
{しん べ な ーハ ふ け る
{ア ー シ シ オ コ ル ー マ バ タン

System 3:

1. 1. 1. 6. 5. 5. 5. 5. 6. 5. 5. 5. 3.

ア ナ ー ソ ー シ ヤ ー ス サ ー マ
ふ ん ー ノ ー げ せ ん ら い カ
ガ ー カ ノ コ エ モ ー タ カ

System 4:

1. 2. 3. 3. 6. 6. 6. 6. 5. 3. 2. 3. 1.

コ レ ン ー マ コ ト シ ユ ラ ノ ミ
で ん な ー つ ん ざ あ か ぎ ん
ホ バ シ サ シ テ ク ダ ル タ カ

黄海の戦

Lyrics for "Yellow Sea Battle" (黄海の戦). The lyrics are written in Japanese and include three systems of text.

(一) 硝煙看るく山をなし、砲弾恰も電に似たり。
浪は激して天を衝き、日光暗黒風咽ぶ。
あな怖しや。これぞ真の修羅の海。

(二) 縦横自在に駆け回る、神變不測の松島艦。
虬は躍り、鰐怒る、波を蹴破る西京丸。
奮闘激戦、雷を駆り、電を突ん裂く赤城艦。

(三) 轟裂の響天を撃ち、或は沈み、または焼け、
または逃げ散る敵の艦。
凱歌の聲も高千穂の橋頭さして下る鷹。

若 紫

5 5 5 2 | 3 1 1- | 5 5 5 2 | 3 1 1- |

(一) ヲカムヲ サキノー メモハル カナルー
(二) わかなは なにぞー すすしろ すすなー
(三) ナナツノ タカラー ソレヨリ コトニー

2 2 3 1 5 3 | 2- 0- | 1 1 2 2 | 5- 3- |

ムサシノー ノー カスミノ オークー
ほとけのー ざー はこべら せーりー
エガターキー ハー エキダノ ヒーマー

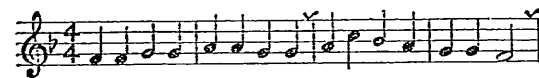
4 4 2 2 | 5- 3- | 1 2 3 1 2 | 1- 0- ||

ツケ ツツ ツー ムー ハツローカ ナー
なづ なに ごー ぎょー ななつー な りー
メゾ ネ テ ツー ムー ヲカナー ナ ヲ

若 紫

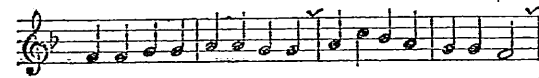
- (一) わかむらさきの めもほるかなる 武藏野の
霞のおく、わけつゝ摘む 初若菜。
- (二) わかなはなにぞ。すずしろ、すずな、ほとけのぞ。
はこべら、せり、なづなにごぎよ、七つなり。
- (三) なづつの寶、それよりことに 得がたきは、
雪消のひま たづねてつむ 若菜なり。

薫に知らるゝ



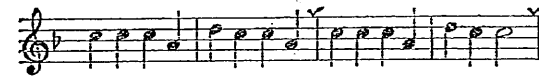
1 1 2 2 | 3 3 2 2 | 3 5 4 3 | 2 2 1—

(一) カチリニ シラルル ハナサク ミソノ—
(二) つきかげ てりそふ のなかの しみづ—



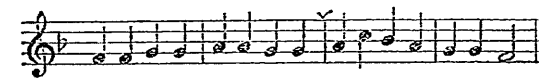
1 1 2 2 | 3 3 2 2 | 3 5 4 3 | 2 2 1—

カスミニ カクルル トリナク ハヤ シ—
もみぢば にほへる とやまの ふもと—



5 5 5 3 | 6 5 5 3 | 5 5 5 3 | 6 5 5—

キミがヨ イハヒテ イクハル マデモ—
きみがよ たえせず いくあきまでも—



1 1 2 2 | 3 3 2 2 | 3 5 4 3 | 2 2 1—

カチレヤ カチレヤ ウタヘヤ ウタヘ—
てらせや てらせや にほへや にほへ—

薫に知らるゝ

(一)

かをりに知らるゝ 花さくみその。

霞にかくるゝ 鳥なくはやし。

君がよいはひて、いく春までも、

かをれや。かをれや。うたへや。うたへ。」

(二)

月かけてりそふ 野中のしみづ。

もみぢばにほへる とやまのふもと。

きみがよ、たえせず、いくあきまでも、

てらせや。てらせや。にほへや。にほへ。」

豊太閤

1. 1. 1. 1. 6. 6. 6. 6. 5. 5. 6. 1. 2. 0.

(一) ツ ソ ミ ハ フ イ ニ オ コ レ ド モ ク
(二) お も ひ て な ら め こ と も な く
(三) ノ コ イ サ チ ハ イ マ モ ナ
(四) ひ と は い ち だ い な は ち と

3. 3. 2. 1. 6. 6. 5. 5. 1. 2. 3. 2. 1. 0.

ク ラ キ ハ ヒ ト ノ カ ミ ニ タ チ
セ ェ め て と ら ざ る し ろ も な く
カ ガ ミ ト ナ リ テー ヨ チ テ ラ ス
え い け し せ ず ほ れ く ち

2. 2. 1. 2. 3. 3. 5. 5. 6. 6. 5. 3. 2. 0.

ロ ク シュー ヨ シュー チ オ ノ ガ テ ニ
く に の い め い な か い が い に
ト ヨ ト ミ タ イ コ ヒ デ ヨ シ ハ
お ほ さ か じー の ま つ あ な し

1. 2. 3. 3. 2. 1. 6. 6. 5. 1. 3. 2. 1. 0.

ニ ギ リ シ ヒ ト ハ タ レ ナ ル ソ
あ げ た る ひ と は た れ な る ゴ
ア ー ヒ ナ ル カ カ ミ ナ ル カ
あ ー ほ たい こ ひ で よ し こ

(第四集)

豊太閤

(第四集)

- (一) その身は布衣に起れども、位は人の上に立ち、
六十餘州をおのが手に握りし人は、誰なるぞ。」
- (二) 思ひてならぬ事もなく、攻めて取らざる城もなく、
國の威名を海外にあげたる人は、誰れなるぞ。」
- (三) 残る功は今もなほ 鑑となりて、世を照す
豊臣太閤秀吉は、 あゝ、人なるか。神なるか。」
- (四) 人は一代、名は千歳 英雄死せず、骨朽ちず。
大阪城の松青し。 あゝ、豊太閤秀吉公。」

海國男兒

(一) ススメヤ ススメヤ カイコグ ダンジ

(二) まもれや まもれや かいこく だんじ

(三) ススメヤ ススメヤ カイコグ ダンジ

(四) まもれや まもれや かいこく だんじ

ヤマナス アラナミ タチクル ナカチ
いっけい ふえきの わがてい こくな
コホニ ミチナキ ホッカイ マデモ
そせんの ふんぼの このわが とちな

ケヤア ヲ スムハ ヲ レラガ ニンソ
しかい めぐらす あなうな ばらほ
アサヒノ ミハタノ ヒラメク カガチ
もーこの てっかん しづめし うみほ

ナニカハ オソレン ヲ ダツミ ノ シロ
ニーその あたへし とりで の ほりぞ
ミンコ ヲ レラガ ミライ ノ ソミ
ほーこー きゆーの せんこの かがみ

(第四集)

海國男兒

- (一) 進めや進めや海國男兒。山なす荒波立ちくる中を
蹴やぶり進むはわれらが任ぞ。何かは恐れん海神の城。
- (二) 守れや守れや海國男兒。一系不易のわが帝國を。
- (三) 四海にめぐらす青海原は、皇祖の與へし岩の濠ぞ。
- (四) 進めや進めや海國男兒。氷に道なき北海までも、
旭の御旗のひらめく影を 見んこそわれらが未來の望。
- 守れや守れや海國男兒。祖先の墳墓のこのわが土地を。
- 蒙古の敵艦しづめし海は、奉公義勇の千古の鑑。

白蓮白菊

(一) ドーロノ カチヨリ ステイデ テー
(二) くさきも かーれし そののう ちー

ニゴリニ シーマヌ ハナハナ スー
ヲキにも いーろは まきりぐ さー

ツーキノ ヒカヨカ ヒールス ゴーグー
いただく しーもは みーなよ そーびー

シーモト サユレバ ナツサム シー
さえゆく つーきは かににほ ふー

白蓮白菊 (つづき)

ミダレル ツーユハ タマトミ エー
つーゆは くすりと きくのみ づー

カチレル カーセハ ミニソシ ムー
うーめは みさなの おのがと もー

コホリノ スーガタ ユーキノ イーロー
ヤーみの よばさへ てーらす なーりー

ツーユナ ケガシソ ヨノチリ ニー
とーりの もーとに

ふみやみ んーふみ やーみー んー

白蓮白菊

(一) 泥のうちより ぬけいでて、にごりにしまぬ はなはちす。

月の光か ひるすごく、霜とさゆれば、夏さむし。

亂るゝ露は たまとみえ、かわれる風は 身にぞしむ。

氷のすがた、雪の色、つゆなげがしそ、世のちりに。」

(二) 草木もかれし 園のうち、雪にも色は まさりぐさ。

いたたく霜は 身をよそひ、さえゆく月は 香ににほふ。

露はくすりと きくのみづ。梅はみさを のおのがとも。

暗の夜さへ 照すなり。東籬のもとに 書や見ん。書や見ん。」

陸 戦



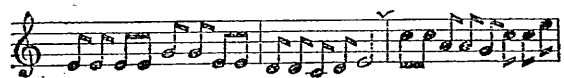
5 1 1 1 1 1 1 1 5 5 6 1 2- 3 2 1 6 1 6

(一) モリニータナピカ ウスガスミ アヒダチヌヒテ
(二) うてのーごーれい よしきらばー いっせいしげき
(三) コヤマノウヘニー ホーレツチー ミカタハシキテ



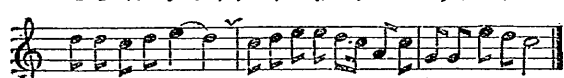
5 5 5 6 5- 1 1 6 1 2 1 6 1 5 5 5 6 5-

ウゴメク ハー マギレモアーラメ テキヘイゾー
こころちよー かーしらかすめて なりすぐるー
ヒノアメ チー テキシメガクテ アビセタリー



3 3 3 3 5 5 3 3 2 2 1 2 3- 1 1 6 6 5 1 1 3

セントー イマニー ハジマランー テーナミミスルハ
たまのー おとはや みみなれぬー きーくしたのもし
ヒビキハ テンチチ ウゴカシテー パーッタチタル



2 2 1 2 3 2 1 2 3 3 2 1 6 1 5 5 3 2 1

コノトキゾー オクレハトーラジ イザススメー
いさみたー いななきかーはす こまのこゑー
スナケムリー ハレタルアートハ テキモナシ

陸 戦

- (一) 森にたなびくうす霞、間をぬひて、うごめくは、
紛もあらぬ敵兵ぞ。戦鬪今にはじまらん。
手なみ見するはこの時ぞ。おくれは取らじ。いざ、進め。」
- (二) 撃ての號令。よし、さらば、一齊射撃こゝちよや。
頭かすめて鳴りすぐる 丸の音はや耳なれぬ。
聞くもたのもし、勇み立ち、いなゝきはす駒の聲。」
- (三) 小山の上に砲列を 身方は布きて、火の雨を

(第四集)

(第四集)

- 敵陣めがけて、あびせたり。響は天地をうごかして、
ばつと立ちたる砂けむり。はれたるあとは敵もなし。」
- (四) 雙眼鏡を手にとりて 立てる身方の司令官、
時は到るとさしまねく。傳令命をかしこみて、
飛鳥のごとく驅けてゆく。馬上の様のいさよしや。」
- (五) 進撃喇叭鳴りわたる。すはや、待ちたる突撃ぞ。
銃劍構へて押しよする 勇敢無雙のわが歩兵。
敵はいかでか支ふべき。あれ、見よ、身方の聯隊旗。」

修學旅行



1. 1 1 3 | 5. 5 6 5 | 1. 1 1 6 | 5. 0 |

(一) アサカセ キョクー アシカロク
(二) のべにー はなあり いざつまん
(三) ニッキニ ツケテー ヲスレヌハ
(四) すぎゆく さとー ちりれきし



6. 6 5 5 | 6. 5 3 2 | 3. 2 3 5 | 2. 0 |

アガコー アトニー タチイグル
やえにー いしあり いざとらん
ヨシアル ツカノー モノガタリ
こころー とどめて みてきき



1. 1 1 3 | 5. 5 6 5 | 1. 1 1 6 | 5. 0 |

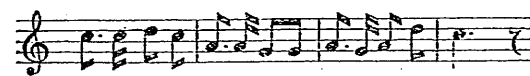
シューガク リョコノ オモシロサ
ならひし がっかの じっけんも
ヒタヒノ アセハー タマニニテ
ちしきー すすむる このりこー

修學旅行 (つづき)



6. 6 5 5 | 6. 5 3 1 | 2. 2 3 2 | 1. 0 |

カレシヤ ニハノー コトリマア
いざこのときぞー おこたるな
シーノギ カネタル アツサチモ
いさむー わらちに あさづゆな



1. 1 2 1 | 6. 6 5 5 | 6. 5 6 2 | 1. 0 |

チチシク ススムー タビダチノ
えにして みたきー ふーけいは
ハーラフ チザサノ ユフアラシ
ふーめば ゆらめき おきかへる



2. 1 6 5 | 6. 5 3 1 | 2. 2 3 2 | 1. 0 ||

ホチョー アハセテ リタフナリ
いそべに たてるー まつひとき
タビザハ ツラキー モノナラズ
なでしこ おほしー こののべは

修學旅行

(一) 朝風あさかぜきよく、足あしかるく、わが校いあとに立たちいづる

修學旅行しうがくりきのおもしろさ。うれしや、庭にはの小鳥ことりまで、

を、しく進すすむ旅たびだちの

歩調ほちうあはせて、歌うたふなり。」

(二) 野邊のべに花はなあり。いざ、摘つまん。山やまに石いしあり。いざ、採とらん。

習ならひし學科がくかの實驗じっけんも、いざ、この時ときぞ。おこたるな。

畫えにして見みたき風景ふうけいは、

磯邊いそべにたてる松まつひと木き。」

(第四集)

(三) 日記にっきにつけて忘わすれぬは、よしある塚つかのものがたり。

額ひたひの汗あせは玉たまに似にて、しのぎかねたるあつさを

はらふ小簍こささの夕ゆふあらし。

旅路たびちはつらきものならず。」

(四) 過すぎゆく里さとの地理歴史ちりれきし 心こころとどめて見みて聞ききて、

知識ちしきすゝむるこの旅行りょこう。勇いさむわらちに朝露あさつゆを

ふめば、ゆらめき、おきかへる

撫子なでしこおほし、この野邊のべは。」

(第四集)

螢の光

5 | 1. 1 1 3 | 2. 1 2 3 | 1 1 3 5 | 6-0 |

(一) ホ と ル ノ ヒ カ リ マ ド ノ ユ キー
(二) タ マ ル ノ ヒ カ リ マ ド ノ ユ キー
(三) ツ ク シ ャ マ ル ノ ヒ カ リ マ ド ノ ユ キー
(四) ツ ク シ ャ マ ル ノ ヒ カ リ マ ド ノ ユ キー

6 | 5. 3 3 1 | 2. 1 2 3 | 1. 6 6 5 | 1-0 |

フ ミ ャ ム ツ キー カ サ ツ ツー
カ ミ ャ ム ツ キー カ サ ツ ツー
サ ミ ャ ム ツ キー カ サ ツ ツー
ヤ ミ ャ ム ツ キー カ サ ツ ツー

6 | 5. 3 3 1 | 2. 1 2 6 | 5. 3 3 5 | 6-0 |

イ シ カ ト シ モ ス ギ ノ ト ナー
ニ シ ロ シ モ ス ギ ノ ト ナー
ソ ノ マ ゴ ン シ モ ス ギ ノ ト ナー
イ タ マ ゴ ン シ モ ス ギ ノ ト ナー

6 | 5. 3 3 1 | 2. 1 2 3 | 1. 6 6 5 | 1-0 |

ア ケ ツ ケ バ サ ハ ヲ カ レ ユ グリ
ミ キ ト ニ ヲ ヲ セ ヲ フ ナー
セ ト ツ ヲ ヲ セ ヲ フ ナー
ツ ト ツ ヲ ヲ セ ヲ フ ナー

螢の光

- (一) 螢の光、まどの雪。ふみよむ月日かされつゝ、
いつしか年もすぎの戸をあけてぞ、けさは別れゆく。
- (二) とまるも、ゆくも、かぎりとして、かたみにおもふ千萬の
心のはしを、一言に ささくとはかり歌ふなり。
- (三) つくしのきはみ、陸の奥。うみやま遠くへだつとも、
その真心はへだてなく、ひとつにつくせ、國のため。
- (四) 臺灣の果も樺太も、やしまのうちのまもりなり。
いたらん國にいさをしく、つとめよ、わがせ、恙なく。

汽 船

(一) 汽笛一聲、うらひびき、船は港を 離れたり。

(二) とどろく車、たなびく煙。望を胸に あつめつゝ、 はや横濱をはなれたり。

(三) 観音崎の 燈臺は 見るく あれに 近づきぬ。 飛びたつ 鷗、出で入る 帆かけ。墨繪に似たる 海原を はしる 船路の こゝちよさ。 東京灣も はやすぎて、針路は右に 轉じたり。 はてなき 波路、つらなる 雲路。この海こそは 忘るなよ。 日本男兒の 故郷ぞ。

(第四集)

汽 船

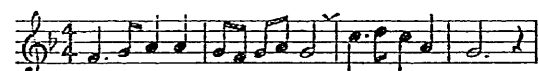
(第四集)

(一) 汽笛一聲、うらひびき、船は港を 離れたり。

(二) とどろく車、たなびく煙。望を胸に あつめつゝ、 はや横濱をはなれたり。

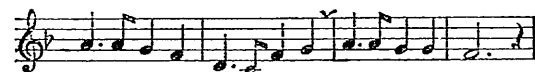
(三) 観音崎の 燈臺は 見るく あれに 近づきぬ。 飛びたつ 鷗、出で入る 帆かけ。墨繪に似たる 海原を はしる 船路の こゝちよさ。 東京灣も はやすぎて、針路は右に 轉じたり。 はてなき 波路、つらなる 雲路。この海こそは 忘るなよ。 日本男兒の 故郷ぞ。

川すずみ



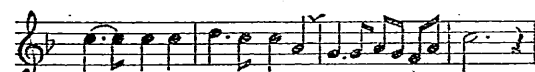
1. 2 3 3 | 2 1 2 3 2- | 5. 6 5 3 | 2- 0 |

(一) イ シ チ モ トーカ スー ナ ツ ノ ヒ モー
(二) とーも と たーがーひに か い と り てー
(三) チ リ シ モ イーグー ルー ツ キ カ ゲ ノー



3. 3 2 1 | 6. 5 1 2 | 3. 3 2 2 | 1- 0 |

ハ ヤ ニ シ ヤー マ ニ シ ツ ミ ケ ヤー
こころの まーまに ふれやれ ばー
ミーグ ニ ウツ リ テ イ ト キ ヨ クー



5. 5 5 5 | 6. 5 5 3 | 2. 2 3 2 1 3 | 5- 0 |

イーザヤ チガハニ フネウケー テー
とびかふ ほーたる みだれーつー つー
ミーソラ コギユク ココチーシー テー



6. 5 3 3 | 2 1 2 3 2 2 | 5. 4 3. 2 | 1- 0 ||

ヒールノ アーツーサチ リスレテ ンー
ふきくる かーぜーのー いとすず しー
フケユク ヨールーゾー ナシマル ルー

(第四集)

川すずみ

(第四集)

(一) 石を^{いし}もとかす夏の^{なつ}日も、はや西山^{にしやま}に沈^{しず}みけり。

いざや、小川^{おがは}に舟^{ふね}うけて、晝^{ひる}のあつさをわすれてん。

(二) 友^{とも}とたがひに權^{かき}とりて、心^{こころ}のまゝに舟^{ふね}やれば、

とびかふ螢^{ほたる}みだれつゝ、吹^ふき來^{くる}る風^{かぜ}のいと涼^{すず}し。

(三) をりしもいづる月^{つき}かげの 水^{みづ}にうつりていと清^{きよ}く、

み空^{そら}こぎゆくこゝちして、ふけゆく夜^{よる}ぞ惜^{をし}まるゝ。

植物園

(ホ調又は變ホ調に移すことを得)



5 1.3 5 5 | 6 5.3 1- | 3 2.7 5 5 | 6 6 5-

- (一) ハナ-アル ハル-ノ- ノド-タキ シセツ-
 (二) すず-しき なつ-の- わか-げの じせつ-
 (三) ナグ-サニ アキ-ノ- ハナ-サク シセツ-
 (四) ゆき-ふる ふゆ-の- さび-しき じせつ-



5 1.3 5 5 | 6 5.3 1- | 2 1.2 4 7 | 2 2 1-

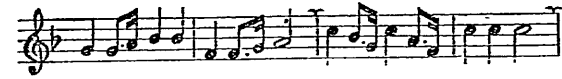
- ショク-アツ エン-ニ- ユケ-ツガ トモヨ-
 しく-ぶつ えん-に- ゆけ-わが としよ-
 ショク-アツ エン-ニ- ユケ-ツガ トモヨ-
 しく-ぶつ えん-に- ゆけ-わが としよ-



2 2.3 4 4 | 1 1.2 3- | 5 4.2 5 3.1 | 2 5 5-

- イチ-シニ ヒラ-ク- サク-ラノ- ハナハ-
 うつ-ぎば しろ-き- かき-11の- つきよ-
 アサ-ブユ シダ-キ- シラ-ギク- キギク-
 おく-しも しろ-き- まが-きの- うちに-

植物園 (つづき)



2 2.3 4 4 | 1 1.2 3- | 5 4.2 5 3.1 | 5 5 5-

- カス-ミカ クモ-カー トバ-カリ- ニホフ-
 かへ-では あか-き- こす-点の- あさひ-
 ユフ-カセ リタ-ル- ハギ-ナミ- ナヘシ-
 のこ-りて さけ-る- すい-せん- おはれ-



5 1.3 5 5 | 6 5.3 1- | 3 2.7 5 5 | 6 6 5-

- ウツ-クシ ウレ-シ- スミ-レモ サカリ-
 うつ-くし うれ-し- あや-めし さきぬ-
 ウツ-クシ ウレ-シ- マク-ズニ チバナ-
 うつ-くし うれ-し- さざ-んか つばき-



1 3.5 1 1 | 1 6.7 1 1.2 | 3 3.4 2 2.3 | 1- 0 ||

- ナガ-メテ アソ-ベア-ソビテウタ-ヘ-
 なが-めて あそ-べあ-そびてうた-ヘ-
 ナガ-メテ アソ-ベア-ソビテウタ-ヘ-
 なが-めて あそ-べあ-そびてうた-ヘ-

植物園

- (一) 花ある春ののどけき時節、植物園にゆけ。わが友よ。
一時にひらく櫻の花は、霞か雲か、とばかりにほふ。
美し。うれし。すみれも盛。ながめて、遊べ。あそびて、歌へ。」
- (二) すずしき夏のわかばの時節、植物園にゆけ。わが友よ。
卯つ木は白き垣根の月夜、かへではあかき梢の朝日、
美し。うれし。菖蒲も咲きぬ。ながめて、遊べ。あそびて、歌へ。」

(第四集)

(第四集)

- (三) 千草に秋の花さく時節、植物園にゆけ。わが友よ。
朝露しげき白菊黄菊、夕風わたる萩をみなへし、
美し。うれし。眞葛に尾花、ながめて、遊べ。あそびて、歌へ。」
- (四) 雪ふる冬のさびしき時節、植物園にゆけ。わが友よ。
おく霜しろき籬のうちに 残りて、さける水仙あはれ。
美し。うれし。山茶花つばき ながめて、遊べ。あそびて、歌へ。」

漁業の歌



(一) ミリタス カギ リー ハルバル トー
(二) みわたす かぎりー はてもな くー
ウナバラ ヲグムー キョギーセー ソー
はまべに きづくー うなのや まー
エモノチイハフ コエゴエハー テンナーユスリテ
このやまこそは わがくにのー ふこくのいしずみ
ソラカキクモリ ウミチユルガシ ナミヒルガヘル
リみんのもとあ しげきたちきの なになくひぞは
アナ ココチヨ ヤ イサマシ ヤー
あな たふとし や めでたし ヤー

(第四集)

漁業の歌

- (一) 見渡すかぎり遙々と 海原うづむ漁業船。
獲物を祝ふ聲々は 天を揺りて、空かさくもり、
海を動し、波ひるがへる。
あな、こゝちよや、勇しや。」
- (二) 見渡すかぎりはてもなく、濱邊に築く魚の山。
この山こそはわが國の 富國の礎、利民の基。
茂木立木の何たぐひぞは。
あな、たふとしや、めでたしや。」

(第四集)

勤勉正直

mf

5 | 1. 1 3 2 | 1- 5 5 | 1. 2 3 1 | 2- 0 |

(一) ヒ ト ト ウ マ ソー シ シ ルー シ ニ ハー
(二) ミ ヨ ヤ ミ ナ シー ゴ キ (い) ん じ ろ ー
(三) ヒ ト ト ウ マ ソー シ シ ルー シ ニ ハー
(四) シ る ヤ ナ サ ナー ゴ ワ シー (い) ん と (お) ん

5 | 3. 2 1 2 | 3- 1 5 | 1. 2 3 2 | 1- 0 |

イ ヘ チ マ モー ミ チー タ テ ヨー
ア リ と あ ら ゆー る う きー め み てー
ナ ホ ク タ ダ シー キ コ コー ロ モ テー
チ ち に い つ はー リ い はー ざ り しー

2 | 2. 7 2 5 | 4. 3 2 7 | 1. 7 6 2 | 2- 0 |

カ ギョー ハ ゲ マー バ イ ヘー ハ ト ミー
ヒ と に す ぐ れー し ひ とー と な リー
ウ ツ ハ ツ ノ バー チ ツ クー ロ ヘー ドー
ナ ほ き こ るー は あ めー り か のー

f *mf*

5 | 1. 2 3 4 | 6- 5 3 | 4. 3 2. 1 | 1- 0 ||

マ ナ ビ ハ ゲ マー バ ミ ハー タ (ア) タン
チ の よ ま でー も あ ふー が る ー
ナ ガ の ク ロ ミー ノ キ ズー ト ナ ルー
ヒ と の か し ちー と あ ふー が る ー

勤勉正直

- (一) 人とうまれしるしには、家を富せよ。身をたてよ。
家業勵まば、家は富み、まなび勵まば、身はたうん。
(二) 見よや、みなしご金次郎。ありとあらゆるうきめみて、
人にすぐれし人となり、後の世までも仰がる。
(三) 人とうまれしるしには、直く正しき心もて。
うそはそのばをつくるへど、永くわが身のきずとなる。
(四) 知るや、をさなごワシントン。父に偽いはざりし
直き心は、アメリカの人のかしらと仰がる。

勅語奉答

4/4

1-2 3 | 6.6 5 2 | 3 4 4 3 | 3-2 0 |

アーヤニ カシコキ スメラギ ノー

4/4

1-2 3 | 6.6 5 2 | 3 5 7 6 | 5- 0 |

アーヤニ タフトキ スメラギ ノー

4/4

1-7 6 | 5 5 4 3 | 2 3 4 5 | 4-3 0 |

アーヤニ タフトク カシコク モー

4/4

1-7 6 | 5 5 4 3 | 6 4 3 2 | 1- 0 |

クーダシ タマヘリ オホミコ トー

4/4

2-2 2 | 5 4 3 2 | 4 3 2 1 | 3-2 0 |

コーレン メデアキ ヒノモト ノー

コーレン メデアキ ヒノモト ノー

勅語奉答 (つづき)

4/4

5-5 5 | 6 5 4 3 | 5 5 4 3 | 2- 0: ||

クーニノ ナシヘノ モトキナ ルー

ヒートノ ナシヘノ カガミナ ルー

4/4

1-2 3 | 6.6 5 2 | 3 4 4 3 | 3-2 0 |

アーヤニ カシコキ スメラギ ノー

4/4

1-2 3 | 6.6 5 2 | 3 5 7 6 | 5- 0 |

ミーコト ノママニ イソシミ テー

4/4

1-7 6 | 5 5 4 3 | 2 3 4 5 | 4-3 0 |

アーヤニ タフトキ スメラギ ノー

4/4

1-7 6 | 5 5 4 3 | 2 3 4 5 6 7 | 1- 0: ||

オーホミ ココロニ コタヘ マーツ ラン

勅語奉答

(一) あやに畏^{かしこ}き天皇^{すめらみ}の、

あやに尊^{たふと}き天皇^{すめらみ}の、

あやに尊^{たふと}く畏^{かしこ}くも

下^{くだ}したまへり、大勅語^{おほみこと}。

これぞめでたき日^ひの本^{もと}の

國^{くに}の教^{をしへ}のもとぬなる。」

(二) これぞめでたき日^ひの本^{もと}の

人^{ひと}の教^{をしへ}のかがみなる。

あやに畏^{かしこ}き天皇^{すめらみ}の

勅語^{みこと}のまゝに勤^{いそし}みて、

あやに尊^{たふと}き天皇^{すめらみ}の

大御心^{おほみこころ}にこたへまつらん。」

學校紀念日

1 1 2 2 | 3-2 3 | 5 5 5 3 | 2- 0 |

(一) ヲ ガ ナ ツ カ- シ キ マ ナ ビ ヤ ノ-
(二) ヤ- ま と な で し こ お ひ い で ん-

3 3 2 2 | 1- 6 6 | 5 5 6 2 | 1- 0 |

メ ナ タ ル ツ- キ ヒ メ ク リ キ ヌ-
な し へ の に- は ぞ た の も し き-

3 3 3 2 | 1- 2 2 | 5 5 6 6 | 5- 0 |

イ ザ モ ロ ト- モ ニ ヲ タ ヒ ツ ツ-
ひ ら き し と- き は か へ り き つ-

3-2 3 | 6 6 5 3 | 2 2 3 2 | 1- 0 ||

チ- ヨ ノ サ カ エ チ イ ハ ハ マ ヌ-
い- ざ や い は ぼ ん み な ひ と も-

(第四集)

學校紀念日

- (一) わがなつかしき まなびやの
たちたる月日 めぐりきぬ。
いざ、もろともに うたひつゝ、
千代のさかえを いはゝまし。
- (二) 大和撫子 おひいでん
をしへのはぞ たのもしき。
ひらきし時は かへりきつ。
いざや、いはゝん、みなひと。

(第四集)

始業式

(一) 今日より開くこの場の

勤め勵みて、もろともに、
學の窓のあけくれに、

いざ、ふみわけん、人の道。

(二) 今朝讀みまつる天皇の

勅語のむねを畏みて、

人たる道を修めつゝ、
いざ、盡してん、國のため。

始業式

3 3 5 5 | 6- 5 5 | 2̣ 2̣ 7 7 | 6- 0 |

(一) クフヨリ ヒーラク ヨノニハ ノー
(二) けさよみ まーつる すめらぎ のー

5 5 6 6 | 5- 3 3 | 2̣ 2̣ 2̣ 1 | 2- 0 |

マナビノ マードノ アケタレ ニー
みことの むねを かしこみ てー

1̣- 2̣ 2̣ | 6 6 5 5 | 6- 5 7 | 6- 5 0 |

アト メ ハタミテ ヨーロト ヨーニ
ひとた る みーちな なーさめ つーつ

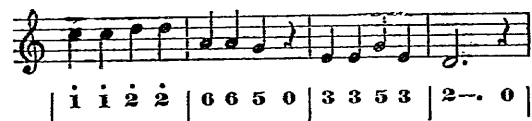
3 3 5 5 | 6- 5 5 | 3 3 5 3 | 2- 0 ||

イザフミ アーケン ヒトノミ ナー
いざつく しーてん くにのた めー

終業式



(一) マナビノ マードニ ケフアス トー
(二) まなびの にーはよ わがとも よー



オクヤマ カヘテ ヒトトセ ハー
しばしわ かれん いざさら ばー



ハーヤモ スギケリ イツシカ ニー
またこん とーしも さちあれ とー



ソオロノ キーミヨ イザサラ パー
こーころ ひとつに いのりつ つー

終業式

(一)

まなびの窓に今日明日と
送り迎へて一年は

はやも過ぎり、いつしかに。

わが師の君よ、いざさらば。

(二)

まなびのにはよ。わが友よ。

しばし別れん、いざさらば。

また来年も幸あれと、

心ひとつに祈りつ。

卒業式

(一) 朝^{あさ}な夕^{ゆふ}なに怠^{おこた}らず

分^わけし山^{やま}路^ぢのかひありて、
今^け日^ふぞ折^をりつる、嬉^{うれ}しくも、

外^と山^{やま}のかつら一^{ひと}枝^{えだ}を。

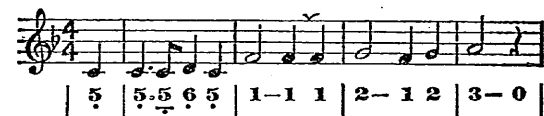
(二) この一^{ひと}枝^{えだ}を乗^しにて、

なほ山^{やま}深^{ふか}くたどりつゝ、

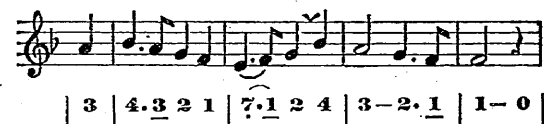
折^をらでは、止^やまじ、白^{しろ}雲^{くも}の

たなびく嶺^ねのそのほづえ。

卒業式



(一) ア サナユフ ナニオ コータラ ズー
(二) こ の ひと え だ-を し な-りに て-



ソ ケ シ ヤ マ ゲーノ カ ヒーア イ テー
な ほ や ま ふ か-く た ど-り つ つ-



ケ フ ソ チ リ ツ-ル ウ レ-シ ク モー
な ら だ は や ま-じ し ら-く も の-



ト ナ マ ノ カ ツ-ラ ヒ ト-エ ダ ナー
た な び く か れ-の そ の-ほ づ え-

日の丸の旗

mf

5. 6 5 3 | 1. 2 3 3 0 | 4. 3 2 1 2 | 3 5 2 2 0 |

(一) ヨ ロ ヅ ノ ク ニ ノ シ ル シ ノ ハ タ ニ
(二) ヨ ロ ヅ ノ ク ニ ノ シ ル シ ノ ハ タ ニ
(三) ヨ ロ ヅ ノ ク ニ ノ シ ル シ ノ ハ タ ニ

f

5. 6 5 3 | 1. 2 3 3 0 | 2 5 7. 6 | 5 4 5 5 0 |

ス グ レ テ ミ ユ ル ノ ガ ヒ ノ ミ ハ タ
め だ ち て み ゆ る わ が ひ の み は た
ヒ ガ シ ニ ニ シ ニ セ カ イ ノ ウ チ ニ

mf

6. 5 4 2 3 | 2. 1 7 7 0 | 7. 5 3 4 | 6. 5 5 5 0 |

イ ハ ノ ヒ ニ モ マ ツ ノ ヒ ニ
い づ く に ゆ く も わ が く に び と
サ ガ ヒ ノ ミ ハ タ カ ガ ヤ ク コ ト

mf

5. 6 5 3 | 1 2 3 2 3 | 5 4 2 3. 2 | 1 1 0 5 - |

ミ ク ニ ノ ヒ カ イ ト ア フ ギ タ ツ ル ア
ミ ク ニ ノ ヒ カ イ ト ア フ ギ タ ツ ル ア
ミ ク ニ ノ ヒ カ イ ト ア フ ギ タ ツ ル ア

f

1- 6 6 7 6 | 5 5 0 1 2 3 | 6- 5. 5 | 1- 1 0 0 ||

ア- メ テ タ シ ヤ- ヒ ノ マ ル- ノ ハ タ-
あ- な つ か し ヤ- ヒ ノ マ ル- ノ ハ タ-
ア- イ サ マ シ ヤ- ヒ ノ マ ル- ノ ハ タ-

(第四集)

日の丸の旗

(第四集)

- (一) 萬の國のしるしの旗に すぐれて見ゆるわが日の御旗
祝の日にも、祭の日にも、御國の光と仰ぎてたつる、
あー、めでたしや、日の丸の旗。
- (二) 隔たる國の港の船に めだちて見ゆるわが日の御旗
いづくにゆくも、わが國人は、御國の榮を祝ひてたつる、
あー、なつかしや、日の丸の旗。
- (三) 學のにはに業なしとげて、 東に、西に、世界のうちに、
わが日の御旗輝くごとく、御國の譽をばげみてあげん。
あー、いさましましや、日の丸の旗。

教育唱歌全八册

| | |
|-----------------------|----|
| 明治二十九年一月二日第一集 | 印刷 |
| 明治二十九年一月十日第一集 | 印刷 |
| 明治二十九年五月十五日第二集 | 印刷 |
| 明治二十九年五月廿六日第二集 | 印刷 |
| 明治二十九年八月一日第一集訂正再版發行 | 印刷 |
| 明治二十九年十二月廿五日第二集訂正再版發行 | 印刷 |
| 明治三十年十二月十五日第二集訂正三版發行 | 印刷 |
| 明治三十年十二月廿五日第一集訂正三版發行 | 印刷 |
| 明治三十一年七月五日第二集訂正四版發行 | 印刷 |
| 明治三十八年八月十七日修正五版發行 | 印刷 |
| 明治三十九年一月廿五日訂正六版印刷 | 印刷 |
| 明治三十九年一月廿八日訂正六版發行 | 印刷 |

定價各册金拾八錢

著作權所有★不許拔萃

編輯者

教育音樂講習會

發行所

西野虎吉

印刷者

野村宗十郎

發行所

東京開成館

電話特等町三五五番

發行所

大阪市心齋橋通北久寶寺町角

發行所

東京市日本橋區通三丁目

林平次郎

M. K. K. KOBAYASHI

小林藏書

小林藏書